

# 文末助詞“来着”のモダリティについて

## On the Modality of the Sentence-end Particle “Laizhe”

森 宏子\*

Hiroko Mori

本稿は、従来、時間論の中で説明されてきた“来着”の解釈を問い、モダリティの観点から“来着”を見直すことを目的とする。“来着”は直接的には、過去の事態を発話の場に関係づける機能を担うが、“来着”の事態のとらえ方には、話し手が観察や体験によってその事態をとらえたということが深く関わっており、最終的に“来着”を「証拠性」(evidentiality)に関わる認識のモダリティと結論づける。

キーワード：来着、モダリティ、未完結、証拠性

### I. はじめに

従来、文末助詞“来着”の研究には、大きく分けて3つの流れがある。1つは、“来着”をアスペクトなどの時間的範疇でとらえようとするもの。いま1つは、“来着”をモダリティ(modality)<sup>1)</sup>とみるもの。さらに1つは、時間とモダリティの両側面を認めて“来着”を2つに分けて考えるものである。

(1) 刚才小王找你来着。(たった今王君が君を捜していたよ)《白水》

(2) 你的房间号码是多少来着?(あなたの部屋番号は何番でしたっけ?)《15讲》

上例にみられるように、“来着”にはやや性格の異なる2つのタイプの文があり、両面派は例(1)を時間、例(2)をモダリティと区別する。結局のところ、“来着”をめぐる議論は、それを時間とみるかモダリティとみるかの攻防であるが、研究の大勢は時間派と両面派が占め、モダリティ派は極めて少数、劣勢である。

さて、筆者は“来着”をモダリティと考える少数派のひとりである。本稿は、従来、もっぱら時間論の中で説明されてきた“来着”の解釈を問い、モダリティの観点から“来着”を見直すことを目的とするものである。

本稿は、まず“来着”とアスペクト辞とを比較し、両者の統語的ふるまいの相違を観察し、“来着”のふるまいがアスペクト辞とは異なること、そしてモダリティ成分一般に共通する特性を有することを確認する。次に、“来着”が取る動詞の形態に着目し、“来着”が事態を未完結の状態

(imperfective)にとらえる特性<sup>2)</sup>を踏まえて、例(1)(2)のような2つの“来着”に一元的解釈を与えるを試みる。“来着”は直接的には、過去の事態や記憶を発話の場に関係づける機能を担うが、さらに特筆すべき特徴として、“来着”の事態のとらえ方には、話し手が観察や体験によってその事態をとらえたということが深く関わっている。このことから本稿は、“来着”は話し手が事態を観察や体験によって直接的に認識したことを示すものであり、「証拠性」(evidentiality)に関わる認識のモダリティであるとの結論を導く。

## II. コトかムードか

### 1. 先行研究

“来着”研究の主流であるところの時間論的解釈をなすものには概ね次のようなものが見られる。まず、アスペクト(時体;時态)と見なすものに、古くは王力(1943/1985:156)の「近接過去相」(近过去貌)、朱德熙1982「アスペクトの語気助詞」(时态的语气词)、龚千炎1995の「近接経験相」(近经历时态)などがある。また、テンス(时制)と見なすものに、宋玉柱1981、张谊生2002などがある。张谊生(2002:62)ではテンスの他に「現在完了」(现在完成体)も兼ねるとの指摘も見られる。その他、陈前瑞2005は「パーフェクト」(完成体)とする。

日本の先行研究ではつとに太田辰夫(1947)が知られるが、そこでは「説話時以前における持続をあらわすことがその根本的機能」(1995:45)との言及が見られる。

以上、中身は一様ではないが、いずれも“来着”は「近い過去に起こった出来事を表す」という点で共通した認識を示している。時間派の問題点は後述する。

一方、“来着”をモダリティと見なすものは、管見の限り、博良勳1947、吕朋林1987、熊仲儒2009を数えるばかりである。博良勳、吕朋林は共に「回想のムード」(回忆语气)を表すとする。しかし彼らのいうムードは意味論的解釈であって、現在のモダリティ論のような理論に支えられたものではない。唯一、熊仲儒2009は“来着”が文末に生起することを根拠にモダリティであることを主張しており、モダリティ論に根差した見解を示すものである。

### 2. 範疇

“来着”は時間を表すのかそれともモダリティかという問題は、単なる意味上の問題ではなく、範疇の問題である。“来着”を時間的範疇にあるものと見なすことは“来着”を命題構成成分(コト)と認めることである。“来着”をモダリティとみることは“来着”が命題の外側にあるものと認めることである。つまりこれは構造上の違いでもある<sup>3)</sup>。

- (3) [……来着] proposition  
[proposition] 来着 modality

朱德熙1982は“来着”を「アスペクトの語気助詞」(时态的语气词)と見なすが、これはいさ

さか矛盾した見解であり、“来着”を時間と見るか、ムードと見るかの難しさを物語っているように思われる<sup>4)</sup>。

龚千炎 1991 は“来着”を「近接経験相」(近经历时态)とし、アスペクト辞“过”に近いものと見なすが、《实用现代汉语语法》(1982:234)では「“过”とは異なり、経験を表わさず、“了<sub>1</sub>”に近い」(“来着”与“过”不同,不表示有某种经历,与“了<sub>1</sub>”比较接近些)との指摘が見られる<sup>5)</sup>。このように従来“来着”は時間論の中でもっぱら議論されてきた。次節以降では、“来着”とアスペクト辞“了”、“过”などとの比較を通して、両者の統語的ふるまいのちがいを確認する。

### 3. 位置

周知の通り中国語のアスペクト辞“了”、“过”、“着”はすべて動詞接辞であるが、“来着”は文末に置かれる。“来着”をアスペクトと見なす立場にとって最大のネックとなる点である。時間派からはこの点について一切コメントが見られず、モダリティ派・熊仲儒 2009 の攻撃的的となっている。(以下、\*は非文を表す)

(4) \*他大概八点去来着图书馆。 (彼はたぶん8時に図書館に行った)《15 讲》

(5) a. 刚才老何找你来着。 b. 刚才老何找过你。

(さっき何さんがきみを探していた)《八百》

なお《现代汉语八百词》は例(5)について、“来着”は「全文を肯定するムード」(肯定全文的语气)、“过”は「動詞の時間的範疇を表す」(表示动词的时间范畴)と説明している。

### 4. 疑問形式

アスペクト辞“了”、“过”は疑問の対象になるが“来着”はならない<sup>6)</sup>。“来着”はそれ自身がモダリティ成分であるので、“吗”などによる問いかけのモダリティの内部に入ることができない。

(6) a. 他发言了吗? b. 他发过言吗? c. \*他发言来着吗?

(彼は発言しましたか)《八百》

(7) a. 他买东西了没有? b. 他买过东西没有? c. \*他买东西来着没有?

(彼は買い物をしましたか)《八百》

“来着”の文は、“了”、“过”の文のように事態の成立(した・しなかった)そのものを問うことはできない。なぜなら“来着”は事態の成立を前提とするものだからである。したがって、事態の成立が前提とされる以下のような未定文は成立する。

(8) 谁发言来着? (誰が発言していたの?)《八百》

(9) 刚才广播里说什么来着? (さっき放送でなんて言っていた?)《虚词》

未定文は命題の範疇にとどまるものなので、モダリティ成分である“来着”と共に起る、“来

着”が命題を包んで文を完成させる何らかの対人的モダリティであることを示している。

## 5. 否定形式

アスペクト辞“了”、“过”の前に付く動詞は否定形になるが、“来着”が前に取る動詞には否定形が使われない。これもアスペクト辞“了”、“过”が事態の生起・非生起に直接関わるのに対し、“来着”はすでに生起した事態を前提とし、非生起の事態には関わることができないことを示している。

- (10) a. 我没去过兰州。            b. \*我没去兰州来着。  
       (a. 私は蘭州に行ったことがない    b. 私は蘭州に行っていない)《八百》
- (11) \*你在天津住了那么长时间了，居然连古文化街都没去来着。  
       (君は天津にあんなに長く住んでいたのに、古文化街さえ行っていないのか)《15 讲》
- (12) \*我昨天没去大剧院听音乐会来着。  
       (私は昨日劇場に音楽会を聞きに行っていない)《15 讲》
- (13) \*昨天上午我没有在家念书来着。    (昨日午前中私は家で勉強していない)《宋 1981》

## 6. まとめ

以上、出現位置、疑問形、否定形の3方面から“来着”とアスペクト辞“了”、“过”を比較した。両者の異質性は明らかであろう。“来着”はアスペクト辞ではなくモダリティと見なすのが妥当である。文末というモダリティが出現する位置に現れ、疑問や否定の作用域に入らないなどモダリティ成分一般に共通する条件を備えているからである。

## Ⅲ. “来着”のメカニズム

### 1. 2つの“来着”

“来着”にはやや異質な2つのタイプの文が存在する。

- (14=1) 来着<sub>1</sub>：刚才小王找你来着。    (たった今王君が君を捜していたよ)  
       来着<sub>2</sub>：你的房间号码是多少来着？    (あなたの部屋番号は何番でしたっけ?)

宋玉柱 1981、张谊生 2002、陈前瑞 2005 は、過去時を表すか否かを基準として、“来着”を2つに分け、前者(来着<sub>1</sub>)を時間、後者(来着<sub>2</sub>)をモダリティと区別する。本稿はどちらの“来着”もモダリティであると見なすが、本章ではこの2つの“来着”がどう有機的に結びついているかを考察する。まず、時間的な“来着<sub>1</sub>”タイプを中心に観察し、“来着”のメカニズムを明らかにする。その後に“来着<sub>2</sub>”タイプがどう関連するのかを考察する。なお、説明の便宜上、“来着<sub>1</sub>”“来着<sub>2</sub>”の表記を行う。

## 2. 動詞の形態

“来着”の文における顕著な特徴は動詞の形態にある。概ね次のような条件がある<sup>7)</sup>。

- ① “来着”が取る動詞は持続動詞で、非持続動詞は不可
- ② “来着”が取る動詞は裸の動詞で、アスペクト辞“了”“过”“着”、結果補語、方向補語、数量補語などを一切伴わない

以下の用例を参照されたい。

- (15) \*去年他死来着。(彼は去年死んだ)《宋 1981》
- (16) \*我是 1988 年出生来着。(私は 1988 年に生まれた)《15 讲》
- (17) \*我是去年大学毕业来着。(私は去年大学を卒業した)《15 讲》
- (18) \*他们前天离开上海来着。(彼らはおととい上海を離れた)《15 讲》
- (19) \*他们到底是什么时候出发来着?(彼らはいったいつ出発したの?)《15 讲》
- (20) 今天上课时老师夸我来着。(今日授業で先生に褒められた)《15 讲》
- (21) 有一个时期,我也对武侠小说着迷来着。  
(一時期、私も任侠小説にはまっていた)《15 讲》
- (22) 你说的那个演员,昨晚我在剧场见他来着。  
(きみのいうその役者、昨夜、劇場で見たよ)《15 讲》
- (23) 前年在庐山开会时,遇到老林两口子,还问你来着。  
(おとし蘆山での会議で林夫妻に会ったら、彼らはあなたのことを訊ねていましたよ)《15 讲》
- (24) 昨天我去颐和园划船来着。(昨日私は頤和園でボートに乗ってきた)《8000》
- (25) 这个在你的屋子里来着,你不可能不知道。  
(これは君の部屋にあったんだよ。君が知らないはずはない)《日本:648》
- (26) 那封信放在柜台上来着。(その手紙はカウンターにおかれてあった)《日本:318》

動詞をめぐる諸条件は、動作の限界化 (bounded) を阻止し、動作を未完結 (imperfective) に保つ手段として機能していると見られる。したがって、持続不可能な動作行為“死”“出生”“毕业”“离开”“出发”の用例はすべて非文となる。中国語母語話者の語感によると、“来着”の文は過去のその状態が今もまだ続いているように感じられるとのことであるが、それもうなずける。動作に限界点を設けないことにより、過去の出来事を今ここに(発話の場に)まだ記憶に新しいものとして示す。これこそが“来着”の表す回想の本質に関わるのではないかと思われる。

## 3. 対比性

“来着”の文が表わすことは、表面的には、過去にそのような状態があったということであるが、過去は現在と対立する関係にあるので、過去の状態を示すことで、現在の状態が対比的に暗

示されることがある。例えば「彼は昔痩せていた」というと、今は痩せていないことを含みとしてもつことと同じである。

(27) 宋桢道：当初我也反对来着。（はじめは私も反対していました）《张 2002》

(28) 他刚刚还在图书馆看书来着。

（彼はさっきまで図書館で本を読んでいたよ）《规范》

(29) 他去年冬天还回家来着。（彼は去年の冬、里帰りしていた）《现汉》

(30) 去年他还学日语来着，你知道吗？

（去年彼は日本語を勉強していたんだよ、知ってる？）《初級》

例えば、例 (27) は、今は賛成していること、例 (28) は、今は図書館にはいないこと、例 (29) は、去年の冬は元気に里帰りしていたのに今年死んでしまったというようなこと、例 (30) は、今年はまた別の外国語を勉強していることなど、現在は新たな状況にあることが暗示される。次例 (31) ~ (33) は含みの部分（下線部）を顕在化させた例である。

(31) 我本来想为这篇小文写个漂亮严谨的总结来着。但我太忙了，（後略）。

（元々この文にはちゃんとした結末を書くつもりだったのです。しかし忙しすぎて…）

《人民网》

(32) 他屋里的灯刚刚还亮来着，怎么会没人？

（彼の部屋の明かりはさっきまでついていたのに、どうして誰もいないの）《实用》

(33) 字典刚才还在这儿来着，怎么转眼就不见了？

（辞典はさっきまでここにあったのに、どうしてなくなったの）《中級》

現在との対比性は、元の状況を示す副詞“当初”“原来”“本来”や、事態を可變的なものとして把握する副詞“还”（原 1992）が伴われることからもうかがえる。ただし、過去の状態は現在とは違うというニュアンスは、あくまでも含みの部分なので、“来着”の文が常に対比性を伴うというわけではない。

#### 4. “来着”の機能

もしその出来事が過去に生じたことを述べるだけであれば、テンスやパーフェクトという解釈も成り立つかもしれないが、そもそもパーフェクトとは本来アスペクト辞“了”が担うものであるはずだ。

(34) 我昨天复习了两个小时的课文。（私は昨日2時間テキストを復習した）

(35) 我在北京住了一年。（私は北京に1年住んだ）

“来着”はやはり他の役割をもって用いられると考えた方がよい。“来着”は、単なる事態の生起をいうものではなく、生じた事態を発話の場に関係づける働きをするものであると本稿は考える。

(36) 哈哈：昨天夜里呀，我就在他家**来着**。

民警：是这样吗？馒头？

馒头：啊，对，对。他是在我家**来着**。

(ハハ：昨夜はですね、彼の家にいたんです／警官：そうなのか、マントウ？／マントウ：そうです、そうです。彼は僕の家にはいたんです)《哈哈》

“来着”は過去に生じた事態を「いま・ここ・私」に結びつける機能を担う。これは“来”が本来有する deictic な機能に負うところが大きい<sup>8)</sup>。現在との関わりの深さを重視して、これをまた時間的範疇から現在完了としてとらえる考えも見られるが(張誼生 2002:62)、《現代汉语八百词》(348 頁)が“来着”は「全文を肯定するムード」(肯定全文的语气)と指摘するように、本稿も“来着”は事態に対する話し手の認知的なとらえ方を表すモダリティであると考え、詳細は次章に譲る。

## 5. いわゆる“来着<sub>2</sub>”

では次に“来着<sub>2</sub>”タイプを考えてみる<sup>9)</sup>。“来着<sub>2</sub>”タイプの特徴は次の2点である。

①必ず疑問文で用いられる

②命題に属性表現など静的述語を取ることがある

以下の用例を参照されたい。

(37) 咱们学校的电话号码是多少**来着**? (学校の電話番号は何番だっけ?)《实用》

(38) 你老家是什么地方**来着**? (あなたの実家はどちらでした?)《宋 1981》

(39) 这个人我见过，他姓什么**来着**?

(この人、会ったことがある。なんていう人だっけ?)《实用》

(40) 她好像叫什么婷，杜婷还是陈婷**来着**，时间太久了我记不清了。

(彼女は某某婷というような名前でした。杜婷だったか陳婷だったか。だいたい前のことなのでよく覚えていません)《人民网》

“来着<sub>2</sub>”の命題内容は、出来事ではなく、知識や情報といったものを表わしている。次例(41)～(44)においても、命題は上例のような属性表現からは逸脱するが、それでもやはり具体的な出来事を述べるというよりも、むしろ出来事についての知識や情報が取り上げられていると考えられる。

(41) 小刘住哪儿**来着**，是果子巷吗?

(劉さんはどこに住んでいるんだっけ、果子巷?)《实用》

(42) 昨天谁找我**来着**，是小赵吗? (昨日誰が訪ねて来たって、趙さん?)《实用》

(43) “现在这国家是哪年成立的**来着**?” “四九年吧。”

(今のこの国、何年にできたんだっけ? / 49年でしょ)《一点》

(44) 你昨天穿什么衣服**来着**，我怎么想不起来了？

(君は昨日どんな服を着ていたっけ、どうして思い出せないのだろう)《实用》

命題内容は出来事に関する知識や情報であればよいので、今話題に上がっている事態は未然でもかまわない。

(45) “考试是从第几课开始**来着**？” “从第5课嘛。”

(試験は何課からだった？ / 5課からだよ)《日本:260》

(46) 你今天几点走**来着**？ (今日何時に出かけるのだった?)《NHK》

宋玉柱 1981 らは“来着<sub>2</sub>”が過去を表わさないとして“来着<sub>1</sub>”と区別するのだが、“来着<sub>2</sub>”タイプは、話し手が命題内容に関する知識や情報をいつ認識したのかということが深く関わっており、このことから“来着<sub>2</sub>”の文は、話し手がその知識や情報を認識したのが過去であることを示している。以前認識した知識や情報が、今現在、失念により不完全な状態にあるので、未定文の形を取っているわけである。

“来着<sub>2</sub>”タイプにおける“来着”の機能は、以前認識した知識や情報を、発話の場に関係づけるものといえる。

## 6. まとめ

“来着”は、過去に経験した出来事や、過去に認識した知識や情報を発話の場に関係づける機能を担う。“来着<sub>1</sub>”は過去の出来事を取り上げ、昔の出来事を回想的に述べる(しばしば今はちがうという含みをもつ)。“来着<sub>2</sub>”は昔知った知識や情報が取り上げられ、(以前それを聞いて知っていたが)今思い出せないということを表す。“来着<sub>2</sub>”は必ず疑問形式(未定文)で現れる。

## IV. “来着”の証拠性

“来着”の特徴は、過去の事態を持続的にとらえるということと、もうひとつ特筆すべき特徴として、話し手が観察や体験によってその事態をとらえたということである。龔千炎 1991 が“来着”を「近接経験相」(近经历时态)とするのも、“来着”の目撃性や体験性を意識してのことであろう。“来着”は話し手が事態を観察や体験によって直接的にとらえたという認識を示しており、本稿は“来着”は「証拠性」(evidentiality)に関わるモダリティであると考ええる。「証拠性」とは、その情報が何に基づくのか、どこから得たのかといったことについての認識的な意味と定義される<sup>10)</sup>。

“来着”の証拠性は以下のテストから確認できる。

(47) {\*听说 / \*好像 / \*也许 / \*肯定} 我昨天去颐和园划船**来着**。

(昨日私は颐和園に行ってボート遊びをした/\*そうだ/\*ようだ/\*かもしれない/\*はずだ)



- (48) {听说 / \*好像 / \*也许 / \*肯定} 今天上课时老师夸我来着。  
 (今日授業中、先生に褒められた / ? そうだ / \* ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (49) {\*听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 他屋子里的灯刚刚还亮来着。  
 (彼の部屋はついさっきまで明かりがついていた / \* そうだ / ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (50) {\*听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 刚才我还看见他来着。  
 (さきほど私は彼を見かけた / \* そうだ / ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (51) {\*听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 字典刚才还在这儿来着。  
 (辞書はさっきまでここにあった / \* そうだ / ? ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (52) {听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 刚才小王找你来着。  
 (さっき王君が君を捜していた / そうだ / ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (53) {听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 他去年冬天还回家来着。  
 (彼は去年の冬、家に帰っていた / そうだ / ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)
- (54) {听说 / 好像 / \*也许 / \*肯定} 去年他还学日语来着。  
 (去年彼は日本語を学んでいた / そうだ / ようだ / \* かもしれない / \* はずだ)

“来着”が、話し手が事態を観察や体験によって直接的に認識したことを表すモダリティであることの証拠に、推量副詞“也许”(かもしれない)や蓋然性副詞“肯定”(きっと～だ)とは共起しない。“也许”や“肯定”はその認識が話し手の想像や思考によって把握したものであることを示すからである。すなわち直接的な認識ではないという点が、“来着”と抵触するのである。

副詞“好像”(ようだ/みたいだ)は、話し手が観察によってその事態をとらえていることを表す。したがって、“来着”の体験性と合致して相性はおおむねよい。例(47)(48)では共起しないが、この原因は、“好像”は話し手が確信のもてない場合に使用されるので、自分の身に起こった事に対して確信がもてないということがおかしいからではないかと思われる。例(50)も自身の事ではあるが、感覚を通してとらえたことなので、確信がないということが問題なくいえるわけである。

最後に伝聞を表す副詞“听说”(そうだ)である。事態を観察や体験によって直接的に認識する“来着”と伝聞の“听说”は、対立が予想されるが、意外に共起可能なケースも多い<sup>11)</sup>。さすがに内容が話し手自身のことでは共起しないが、それ以外のことでは共起は可能である。“听说”は他人から情報を取り入れたことを意味するが、たとえそれが他人からの情報であったとしても、話し手が直接的に把握した事態であることには変わりなく、“也许”や“肯定”のように話し手の憶測によるものではないという点で、“来着”との共起が可能になるのだと考えられる。なお、例(48)は自身の事であるが、例えば、自分は今日授業を休んだが、人からそのように聞いたという想定なら使用は可能である。

以上のような結果から、“来着”は話し手が事態を観察や体験によって直接的にとらえたという認識を示すモダリティである<sup>12)</sup>と結論づけられる。

## V. おわりに

本稿は、従来とりわけ中国において、時間論の中で説明されてきた“来着”を、モダリティの観点から見直すことを試みた。“来着”は、過去に経験した出来事や、過去に認識した知識や情報を発話の場に関係づける機能を担う。“来着”の事態のとらえ方には、話し手が観察や体験によってその事態をとらえたということが深く関わっており、最終的に、“来着”は話し手が事態を観察や体験によって直接的に認識したことを示す「証拠性」(evidentiality)に関わる認識のモダリティであると結論づけた。体験や目撃は過去性と深く関わるため<sup>13)</sup>、これまで“来着”はその過去性ばかりが注目され、アスペクト辞“了”などとは明らかに異なる統語的ふるまいを見せるにも関わらず、そのことは不問にふされ、長年不当な誤解を受けてきたように思われる。

最後に残した問題について少し触れておきたい。“来着”が表わす回想とは結局どのようなものかという問題である。例えば「地球は青かった」とは旧ソビエトの宇宙飛行士ガガーリンの有名なことばであるが、“来着”はこのような回想がいない。「私は昔泳ぎがうまかった」「彼は昔不良だった」「昨日食べた寿司はおいしかった」等等、“来着”は属性や特性の回想を言うことには不向きである。

(55) \*地球很蓝来着。

(56) \*我以前很会游泳来着。

(57) \*他过去是小流氓来着。

(58) \*昨天吃的寿司很好吃来着。

“来着”は事態を未完結の状態にとらえる特性がある一方で、属性や特性といった静的述語を拒否するのは何に起因するのであろうか<sup>14)</sup>。属性や特性は出来事のように可変的に扱うことができないということが原因なのだろうか。いずれにせよ“来着”が表わすことができる回想は極めて限定的なものであるとはいえるものの、これが何を意味するかについては未だ明らかではない。これに対する回答は今後の課題としたい。

### 〈注〉

- 1) 本稿では、モダリティを慣例にしたがいムードと呼ぶ場合がある。同様に、命題もコトと呼ぶ場合がある。同じ意味で使用している。
- 2) 森山卓郎・海蓮 2005 は“来着”の基本的な意味を「過去における imperfective な把握」と見なす。本稿もこれに従う。
- 3) 张谊生 (2002: 71) にも指摘が見られる。“凡是表示语气为主的“来着<sub>2</sub>”，都是属于句子层面的，而“来

着<sub>1</sub>”是属于句法层面的”(モダリティを表わす“来着<sub>2</sub>”は文レベルに属し、“来着<sub>1</sub>”は syntax レベルに属す)。すなわち、時間を表す“来着<sub>1</sub>”は文内部のコトに属するもので、“来着<sub>2</sub>”はコトの外側にあって文(を完成させる)レベルのものである、ということである。

- 4) 朱德熙のいう“时态的语气词”には文末助詞“呢”も分類されている。従来、“呢”も進行を表わすアスペクト助詞との見方が根強いが、木村英樹 2006 はモダリティと見なす。
- 5) ただし、この部分の記述は 2001 年の増訂本からは削除されている。
- 6) 《现代汉语八百词》(348-349)、龚千炎(1995:88)など参照。
- 7) 《汉语虚词 15 讲》(236-237)、宋玉株(1981:273)、张谊生(2002:60)、《现代汉语八百词》(348-349)、《实用现代汉语语法》(407)など参照。なお、次のような例外もある。

- (1) アスペクト辞“着”との共起は不可であるが、結果状態の持続を表すものは共起可能。
  - ① 门开着来着。(ドアは開いていた) 《朱 1982》
  - ② 他刚才在这儿坐着来着。(彼はさっきまでここに座っていた) 《宋 1981》
- (2) アスペクト“过”との共起は不可であるが、繰り返し可能な動作行為の場合は共起可能。
  - ③ 这件事他好像说过来着。(このこと彼、いついたよなあ) 《中級》
- (3) 結果補語についても許容されるものがある。用例(26)もそうであるが、結果義が希薄なものは共起可能。
  - ④ 我刚才还看见他来着。(さっき彼を見かけたよ) 《中級》

要は、動作に限界化をもたらさなければ許容されるということである。

- 8) 日本語においても「昨夜来<sub>2</sub>の雨」「20年来<sub>2</sub>の友人」といった表現に近しさを見ることができる。
- 9) “来着<sub>2</sub>”の考え方は金水敏・工藤真由美・沼田善子(2000:3-65)に負うところが大きい。
- 10) 日本語記述文法研究会編(2003:164)参照。
- 11) “来着”が“听说”と共起可能であることは、次のような疑問文と表裏一体をなす。
  - ⑤ 看你满头大汗,干什么来着?(あなたすごい汗、何をしていたの?)《15 讲》
  - ⑥ 老师说<sub>2</sub>什么来着?我没注意听。  
(先生、なんて言っていた? わたし、よく聞いてなかった。)《15 讲》
  - ⑦ 什么?谁肚子疼来着?(なに? 誰がお腹痛いつて?)《15 讲》

この疑問文は“来着<sub>2</sub>”の話し手の失念を表すものとは異なる。話し手にはもとよりそのことに関する情報がなく、情報は聞き手にあり(少なくとも話し手はそう思っており)、いま正に外部(=聞き手)から情報を取り入れようとする場面である。失念タイプとのちがいは、情報のソースを、自分の記憶に求めるのか、外部に求めるのかのちがいであるが、本稿はこのタイプの位置づけに対する考えを持ち合わせない。今後の課題としたい。

- 12) 未見ではあるが、宋文輝 2004 は“来着”を「事实の確証性を肯定するモダリティ」(表示对事实存在的确定性肯定的语气词)としており(熊仲儒 2009:15)、おそらく本稿と似た考えにあるのではないと思われる。
- 13) 工藤真由美・八亀裕美(2008:47-62)、定延利之(2008)など参照。
- 14) 静的述語を全く拒否するわけではないが、“来着<sub>2</sub>”タイプのようにしか使用されない。

## 〈参考文献〉

- 太田辰夫 1947 (1995). 「“来着”について」, 『中国語文論集』: 44-52 頁。汲古書院。
- 木村英樹 2006. 「「持続」・「完了」の視点を超えて—北京官話における「実存相」の提案—」, 日本語文法学会『日本語文法』: 45-61 頁。
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子 2000. 『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』: 3-65 頁。岩波書店。
- 工藤真由美・八亀裕美 2008. 『複数の日本語 方言からはじめる言語学』, 講談社選書メチエ: 47-62 頁。講談社。
- 定延利之 2008. 『煩惱の文法』, ちくま新書 730. 筑摩書房
- 日本語記述文法研究会編 2003. 『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』: 133-188 頁。くろしお出版。
- 原由起子 1992. 「“还”と時間副詞」, 『日本語と中国語の対照研究論文集 (下)』: 83-111 頁。くろしお出版。
- 森山卓郎・海蓮 2005. 「過去と認識—「モダリティのタ」と「来着」について」, 日中理論文法研究会 (05.7.7.)  
でのレジュメ
- 白晓红・赵卫编 2007. 《汉语虚词 15 讲》: 236-237 页, 北京语言大学出版社。
- 博良勳 1947. 《助詞の研究》, 神戸外国語大学図書館蔵。
- 陈前瑞 2005. 〈“来着”的发展与主观化〉, 《中国语文》第 4 期: 309-319 页。
- 龚千炎 1991. 〈谈现代汉语的时制表示和时态表达系统〉, 《中国语文》第 4 期: 251-261 页。  
—— 1995. 《汉语的时相 时制 时态》: 87-89 页, 北京: 商务印书馆。
- 刘月华・潘文娉・故骅 1983. 《实用现代汉语语法》: 234 页。北京: 外语教学与研究出版社。  
—— 2001. 《实用现代汉语语法》(增订本): 407 页, 北京: 商务印书馆。
- 吕朋林 1987. 〈也谈“来着”〉, 《汉语学习》第三期: 10 页。
- 吕叔湘主编 1980 (2001). 《现代汉语八百词》(增订本) 348-349 页, 北京: 商务印书馆。
- 史有为 1994. 〈也说“来着”〉, 汉语学习 第一期: 15-16 页。
- 宋文辉 2004. 〈也论“来着”的表达功能——与熊仲儒同志商榷〉, 《语言科学》。
- 宋玉柱 1981. 〈关于时间助词“的”和“来着”〉, 《中国语文》第 4 期: 271-276 页。
- 王力 1943 (1985). 《中国现代语法》: 156 页。北京: 商务印书馆。
- 熊仲儒 2009. 〈再论“来着”〉, 《汉语学习》第 3 期: 12-16 页。
- 张谊生 2002. 〈时制助词“来着”的个性特征〉, 《助词与相关各式》: 58-74 页。安徽教育出版社。
- 朱德熙 1982 (1997). 《语法讲义》: 209 页。北京: 商务印书馆。

## 〈用例出典〉

- 八百 = 《现代汉语八百词 增订本》(前掲)
- 实用 = 《实用现代汉语语法》(增订本)(前掲)
- 15 讲 = 《汉语虚词 15 讲》(前掲)
- 初级 = 《初级口语》: 264 页。北京語言学院, 1981。
- 8000 = 《汉语 8000 词词典》: 748 页。北京语言文化出版社, 2000。
- 规范 = 《现代汉语规范词典》: 778 页。外语教学与研究出版社, 2004。
- 中级 = 《中级口语》: 161 页。北京語言学院, 1983。
- 现汉 = 《现代汉语词典》(第 5 版): 808 页。商务印书馆, 2005。

虚词＝《现代汉语虚词词典》；332 页。商务印书馆，2005。2001。

一点＝王朔：〈一点正经没有〉，《王朔谐趣小说选》：79 页。作家出版社，1991。

NHK＝NHK テレビ中国語講座テキスト 1996 年 3 月号：15 頁。

日本＝《中文版 日本語句型词典》。くろしお出版，2001。

白水＝『白水社中国語辞典』：779 頁。白水社，2002。

哈哈＝〈哈哈闯世界—无风起浪〉，《中国語ジャーナル》2002 年 2 月号：92 頁。アルク。

人民网＝<http://www.people.com.cn/>

\*なお用例に表記のないものは自作（中国語母語話者によるチェック済）